

## 令和7年度 学校評価報告書

小樽市立稲穂小学校

校長 遠藤 隆典

【評価】 数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価することを基本とする。

A: 100%以上 / B: 80%以上100%未満 / C: 80%未満

※ 評価する際には、学校関係者と密接な連携をとり、単に数値の達成率を見るだけでなく、目標達成に向けたプロセスや、児童生徒の成長の度合い、具体的な取組の内容などを総合的に評価すること。

## 1 本年度の重点目標

◎学校教育目標 「りこうで たっしやで ほがらかな稲穂の子」

重点＝具体的に目指す子どもの姿 ○わかったことや思ったことを表現することができる(ICTも含む) ○自分の体を知り、体力向上や健康に気を付ける ○より良いものを作り出すために学級・学年や異学年と協働できる ○人の話や文をしっかりと理解し、行動することができる ○学習したことや他の意見、調べたこと(ICTも含む)をもとに答えを見付ける ○自分の言動に責任をもち、より良い行動を考え、進んで取り組む ○相手意識をもち、全ての人が等しく価値ある存在として大切にする ○いじめを許さず、自他の命を大切に行動をとることができる

## 2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国的学力調査の平均正答率が全国以上	B	各教科の評価規準を踏まえ資質・能力の確かな定着を図る主体的な学びを目指した授業改善を進めた。全国学力・学習状況調査結果は、国語は全国比+3p、算数は全国比-7pだった。標準学力調査では、3年、5年共に国語・算数の全国平均正答率を上回った。	◎
	特別支援教育の充実	教職員自己評価「特別支援教育の視点で授業及び教育活動の改善と充実に取り組んでいる」の肯定的な回答、90%以上。	A	特別支援教育の研修を複数回実施し、特別支援教育の意識を高め、職能向上を図り、教育活動の充実を進めている。「特別支援教育の視点で授業及び教育活動の改善と充実に取り組んでいる」の肯定的な回答89%。	◎
	国際理解教育の充実	児童アンケート「外国語を使いたいと思う」肯定的回答、3学年以上で80%以上	A	外国語を用いてコミュニケーションする活動を位置付けて積極的にチャレンジする取組を行った。児童アンケート「外国語を使いたいと思う」肯定的回答、3学年以上で80.1%。	◎
	理数教育の充実	児童アンケート「算数の学習が好き」「理科の学習が好き」の肯定的な回答、それぞれ90%以上。	B	算数は1～3年、5・6年が専科指導、理科は、3～6年専科指導を行い確かな資質能力の育成を図っているが楽しさを感じる授業づくりへの改善をしていく必要がある。児童アンケート「算数の学習が好き」の肯定的回答76.7%。「理科の学習が好き」の肯定的な回答85.7%。	◎
	情報教育の充実	児童アンケート「タブレット端末を自分で工夫して使っている」肯定的回答が4学年以上で80%以上	A	全学年で日常的にタブレット端末を活用した教育活動に取り組み、情報活用能力を積み上げながら育成を図っている。児童アンケート「タブレット端末を自分で工夫して使っている」肯定的回答が4学年以上で84.7%。	◎
	キャリア教育の充実	教職員自己評価「児童に社会とのつながりを意識させ勤労感や職業観を高める授業の充実に取り組んでいる」の肯定的な回答、90%以上。	A	キャリア教育の取組を3年以上で計画的に実施し地域施設での職場体験や地域施設の見学や外部講師を招いた出前授業などでキャリア教育を実施している。「児童に社会とのつながりを意識させ勤労感や職業観を高める授業の充実に取り組んでいる」の肯定的な回答100%。	◎
改善方策	今年度は、確かな資質・能力の定着へ向け指導事項と学習評価の整合性を意識して子どもが主体的に学ぶ授業の研修を学校全体で推進できた。UDL(子どもの視点及び特別支援教育の視点に基づいた授業づくり)による「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善は本校の授業改善の柱になっているので今後も研修内容として取り組み授業改善を図っていく。キャリア教育では多様な地域人材に協力いただき有意義な授業を実施できているので、今後もつながりを広げ発展させていく。				
学校関係者評価委員による意見	学力・学習状況調査の結果・課題をふまえて問題の意図を読み取る読解力の育成を図っていくことが重要だと考える。算数では授業で楽しく知的な興味を高めわくわくする授業を目指してほしい。そのためにも教師の授業研究が重要なので各自が研修する時間を確保してほしい。キャリア教育の充実が図られているのが素晴らしい、社会の変化で働き方が大きく変わっている子どもたちが自分の得意を生かして豊かに生きていけるように今後もキャリア教育を充実させてほしい。				

2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	教職員自己評価「道徳教育の重点を意識した教育活動の改善・充実に取り組んでいる」の肯定的な回答、90%以上	A	道徳授業において価値項目に対して自分なりにふり返り考え深める指導への工夫改善に全学年で取り組んだ。「道徳教育の重点を意識した教育活動の改善・充実に取り組み、自分の考えを深めさせる学習活動に日常的に取り組んでいる」の肯定的な回答92%。	◎
		ふるさと教育の充実	教職員自己評価「地域の教育力を活用した授業を通して、ふるさと小樽への愛着を深めている。」の肯定的な回答、90%以上。	A	1, 2年生の生活科「まちたんけん」や3～6年生の社会科や総合的な学習の時間「みのりタイム」など全学年で地域施設訪問や外部講師を活用した授業を行った。「地域の教育力を活用した授業を通して、ふるさと小樽への愛着を深めている。」の肯定的な回答100%。	◎
		読書活動の推進	1日に読書に30分以上親しむ児童の75%以上	B	児童アンケート「1日に30分以上本を読んでいる」が35.4%であった。本に親しむことは本校の課題であるが、読書アプリを活用の様子から本に親しむ児童が増えているので、アンケートの質問への理解のしかたを含めて考察を続ける。	◎
		体験活動の推進	教職員自己評価「社会に開かれた教育課程を通して豊かな体験活動により生きて働く力を身に付けている。」の肯定的な回答、90%以上。	A	潮音頭体験学習の全学年実施や潮ねりこみ・PTAハロウィンパレード・朝のラジオ体操など地域とのつながりを深めたイベントをPTA・CSで積極的に実施した。「社会に開かれた教育課程を通して豊かな体験活動により生きて働く力を身に付けている。」の肯定的な回答96%。	◎
		コミュニケーション能力の育成	児童アンケート「友達と力を合わせたり、助け合ったりしている」の肯定的な回答、90%以上。	A	人と関わり力を合わせて取り組んでいくことの大切さを様々な教育活動の場面で重視して取り組んでいる。児童アンケート「友達と力を合わせたり、助け合ったりしている」の肯定的な回答92.9%。	◎
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う95%	A	いじめ見逃し0を目標に掲げて、様々な教育活動でいじめがダメなことを指導してきた。児童会を中心に主体的に考え行動することの大切さも意識させてきた。児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」肯定的回答97.3%。	◎
改善方策	全職員でのあたかいかかわりを要とした生徒指導・学習指導のより一層の充実を図り、心理的安全性が高く落ち着いた学校風土を継続していくことが重要と考える。また、地域の施設・人と今後もより一層連携を深めて体験的な学びを核とした豊かな学びを継続実施していく。課題である読書活動の推進は、学校図書館の環境整備の充実と図書に親しむ機会を増やす働きかけを工夫しながら継続していく。また、端末での読書アプリの活用により本に親しむ場が学校生活の中でも増えているので、読書アプリの学校・家庭での積極的な活用を呼びかけ学校図書館利用と連動させながら読書習慣の向上に繋げていく。					
学校関係者評価委員による意見	読書の実態が課題となっているが、学校としては読書アプリの活用など様々に取組を工夫していて児童の実態は改善されているように感じる。しかし、「1日に読書に30分以上親しむ」という評価項目と子どもの受け止めにずれが出たことで評価の数値が下がっていると考えられる。子どもたちは学校生活でも様々な時間を活用して読書に親しんでいるので、それらを拾い上げていけるような項目や1週間のスパンで読書への意識を振り返らせるなど、子どもの実態に合わせた質問項目の文言を検討していくといい。					

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況・達成状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	新体力テストで全国平均を7割以上の種目で上回る	B	新体力テストに全学年で1学期と2学期に2回取り組んだ。新体力テストの7種目で全国平均を上回ることができたのは、2年女子、3年男子、5年男子、6年男子だった。学年別男女別で全国平均を上回ったのは5割で、約2割がほぼ全国と同等ながら平均を超えない状況であった。	◎
		食育の推進	児童アンケート「毎日、朝ご飯を食べていますか(休みの日も)」の肯定的な回答、90%以上。	A	規則的な生活習慣の定着を年間を通じて働きかけ、朝ご飯を食べることの大切さも呼び掛けている。児童アンケート「毎日、朝ご飯を食べていますか(休みの日も)」の肯定的な回答96.9%。	◎
		健康教育の充実	教職員自己評価「生活リズムチェックシートの活用等により、基本的な生活習慣の確立を図っている。」の肯定的回答、90%以上。	B	外部人材による健康教育の出前授業を計画的に実施した。協会病院産婦人科医による授業を4年生の保健の授業で(2時間×2学級)を実施した。また、2年生にも体の発育とプライベートゾーンを大切に授業を行った。「生活リズムチェックシートの活用等により、基本的な生活習慣の確立を図っている。」の肯定的回答88%。	◎
改善方針	・体力向上には個々の課題意識の向上が不可欠なので端末アプリを活用しながら自分の体力的課題と今後の目標を意識させる働きかけを今後も各学年で継続して行っていく。体力テストの学年別上位記録の掲示は児童・保護者の関心が高く、運河ロードレースなどのスポーツイベントへの参加も増えているので、今後も掲示を継続していく。しかし、家庭や個人での課題意識の差が大きい。体育授業の工夫改善に全学年で取り組むとともに、課題のある運動の出前授業の実施やチャレンジ企画などで楽しみながら体力向上を意識する取組を行っていく。					
学校関係者評価委員会による意見	体力・運動習慣向上への意識が子どもたちの中に高まるよう取組を今後も工夫して働きかけていくことを期待している。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	保護者アンケート「学校はお子さんの様子について適切に家庭に連絡したり、面談を行い、連絡や相談を受けやすい対応に努めている。」の肯定的回答、90%以上。	A	全職員であたたかいかかわりを土台に教育相談しやすい学校づくりを進めている。保護者アンケート「お子さんの様子について適切に家庭に連絡したり、面談を行い、連絡や相談を受けやすい対応に努めている。」の肯定的回答93.3%。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	保護者アンケート「学校はCSとして地域・家庭と協働してよりよい学校づくりを進めている」の肯定的評価90%以上	A	CSとして、PTAや地域と連携し地学協働として多くの取組を実施している。保護者アンケート「学校はCSとして地域・家庭と協働してよりよい学校づくりを進めている」の肯定的評価96.6%。	◎
改善方針	・開校130周年記念事業を年間を通じて事業を実施し、保護者・教職員・地域の連携が一層強まった。様々なイベントや取組にとっても多くの児童保護者が参加し、地域との関わりも実感できていた。今後も地域とのかかわりを深める活動を児童に体験させる教育活動及び事業を検討し積極的に実施していく。また、保護者アンケートでの意見やPTA役員・学校運営協議会委員の学校運営への感想・意見をもとに、各種教育活動の推進や取組の改善に生かしていく。					
学校関係者評価委員会による意見	開校130周年記念事業などにPTAを中心に地域及び地域商店街とも連携して一体となって取り組みなど、地域に根差した学校として連携・協働が深まり素晴らしかった。今後も、学校・保護者・地域が一体となって、教育活動が充実されていくことを期待している。子どもの得意を伸ばすことができる教育を学校と家庭が連携して推進して欲しい。					

5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	保護者アンケート「中学校教員による専科指導や児童生徒の交流を行うなど、中学校と連携し、義務教育9年間を見据えた教育の推進に努めている」の肯定的回答、90%以上。	A	小中一貫のグランドデザインを共有し、情報共有と連携した指導を増やす取り組みを進めている。保護者アンケート「中学校教員による専科指導や児童生徒の交流を行うなど、中学校と連携し、義務教育9年間を見据えた教育の推進に努めている」の肯定的回答95.5%。	◎
		教育環境の整備・充実	教職員アンケート「学校は働きやすさへ向けた取り組みを進めている」肯定的回答80%以上	B	包括的な学校改善としてICTを活用した校務改善に多面的に取り組んだ。また、協働的な業務推進となるよう組織的な学校運営を進めているが、「学校は働きやすさへ向けた取り組みを進めている」肯定的回答76%と、達成できていない。	◎
		教職員の資質・能力の向上	教職員自己評価「各種研修会や研究会、ミニ研修への参加を通して、求められる教師像へ向け資質・能力の向上に努めている。」の肯定的な回答、90%以上。	A	年間を通じて研修・ミニ研修(年10回以上実施)を行い充実を図っている。その他各自によるオンデマンド研修・オンライン研修や各種研修会に全職員が積極的に参加し職能向上につなげていた。「各種研修会や研究会、ミニ研修への参加を通して、求められる教師像へ向け資質・能力の向上に努めている。」の肯定的な回答100%。	◎
		学校運営の改善	月45時間以上の超過勤務全職員15%以下	B	月45時間以上の超過勤務の職員の割合15.6%。組織的で協働的な業務マネジメントで業務の効率化や働きやすさ創出へ向け取り組み、極端に遅くなる勤務状況にはなっていないが、教職員の欠員による業務増や周年事業に関わる業務もあり目標に至らなかった。	◎
		学校安全教育の充実	保護者アンケート「学校は、交通安全指導や避難訓練、不審者対応訓練など、子どもたちが安全な生活を送ることが出来るように努めている」の肯定的な回答、90%以上。	A	安全・安心な学校生活を目指し、各種安全指導に学校全体で年間を通じて取り組んでいる。保護者アンケート「学校は、交通安全指導や避難訓練、不審者対応訓練など、子どもたちが安全な生活を送ることが出来るように努めている」の肯定的な回答97.8%。	◎
改善方策	・小中一貫のグランドデザインに基づき、情報共有や協働実践など様々な取組の検討を教職員間で進める風土になったので、今後は各部会での検討事案を具現化していく意識を高めていく。学校DXにより業務の効率化をさらに進めていく。また組織的かつ協働性の高い職員集団になることが働きやすさにつながるため、情報共有と組織的業務マネジメントに力を入れ、教職員が働きがいを感じ働きやすさを実感していけるよう工夫・改善の取組を進めていく。					
学校関係者評価委員会による意見	様々な連絡や情報のテトル配信などで今後も学校と保護者が連携して混乱なく対応して欲しい。学校ではDXとして校務の効率化を様々な進めているが「働きやすさや働きがい」は高まらないなどその取組の難しさを感じる。今後も職員意識が高まるように学校全体で工夫して取組を進めてほしい。不登校が全国的に増え小学校2年生ぐらいから困り感も高まるようである。幼保との連携を今後も充実させ低学年での困り感に丁寧な目を向けたかかわりを大切にしたい。					
社会教育に関連する目標(目標6～8)		児童アンケート「地域のイベントや町内会の行事などに参加しようと思う。」の肯定的な回答、90%以上。	B	CSとして、PTAや地域と連携し地学協働として多くの取組を実施し多くの児童が積極的に参加している。児童アンケート「地域のイベントや町内会の行事などに参加しようと思う。」の肯定的な回答85.4%。	◎	
改善方策	・市中心部に位置する本校の地域性を生かし、今後も地域の施設や学芸員等の講師を招いた体験的な教育活動のさらなる充実や地域と連携した多様なPTA活動の実施などに取り組んでいく。学校の休みの日の地域の活動への参加意識が低い児童が一定数いると考えられるので、働きかけ方を工夫していく。					
学校関係者評価委員会による意見	地域行事に必ずしも参加したいという人ばかりではないので、参加しなくても地域を思う気持ちを持っているという家庭もあると考えると、質問項目において、地域とのかかわりを考えることを意識させるような質問項目への変更をしていった方がいい。					